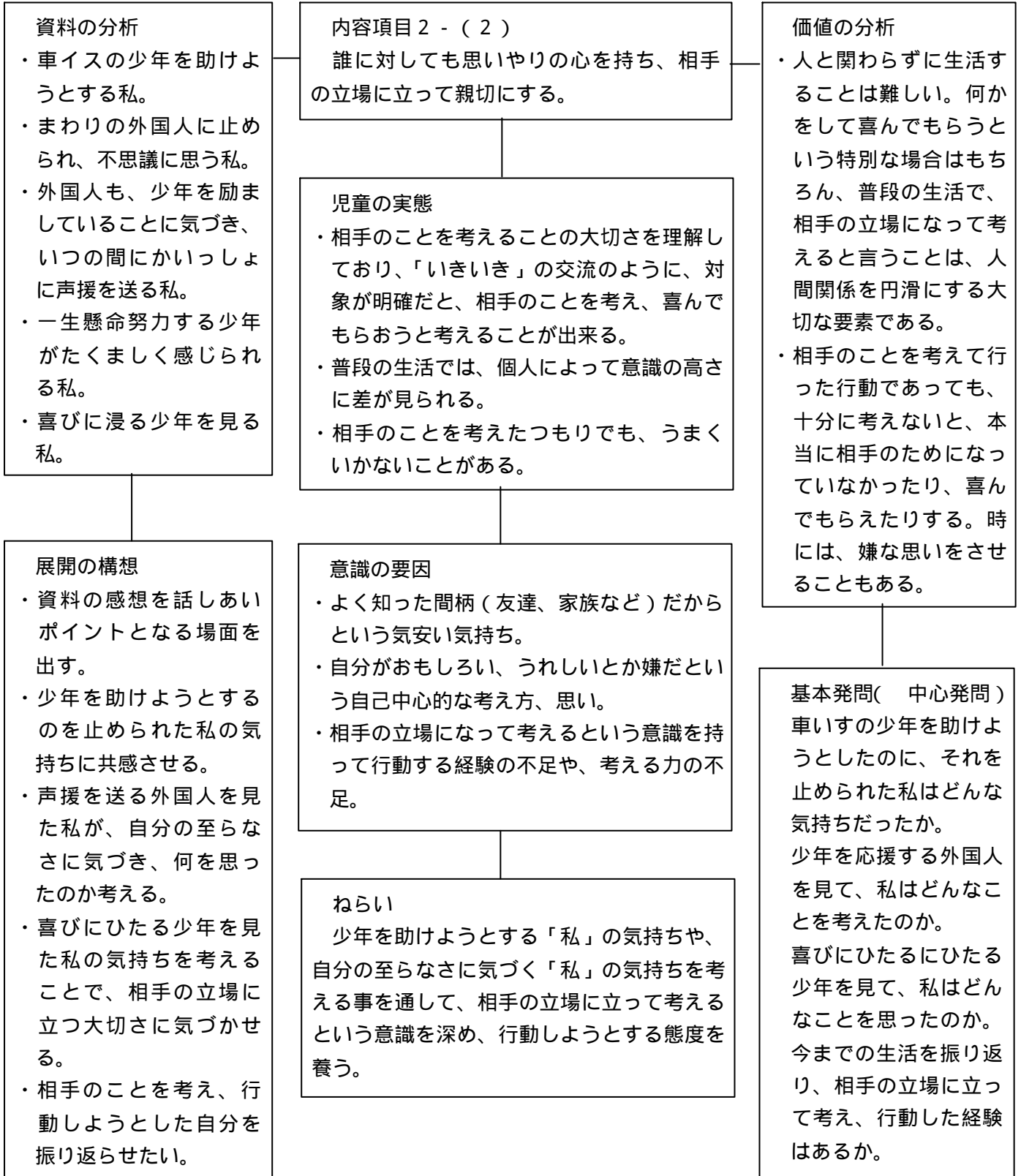


第6学年 道徳指導案

日時 平成15年11月28日
場所 6年 組教室
授業者 大洞 久

1, 主題構成表

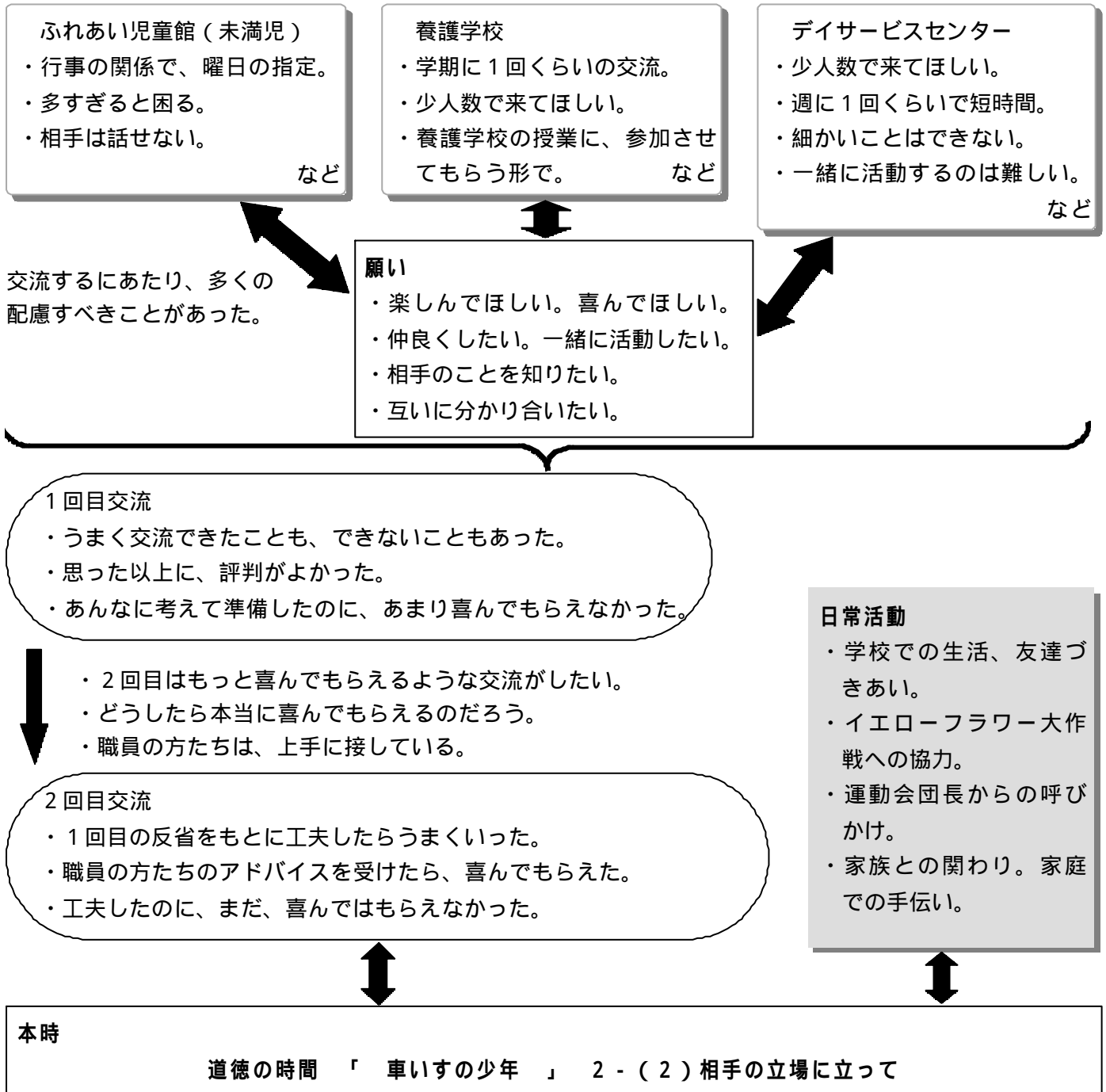
主題名：相手の立場に立って考える 資料名：「 車いすの少年 」



2 , 道徳の時間（本時）と他の教育活動との関連

「いきいき」の時間

「みんなが幸せにくらせる町」をテーマに活動。幅広い年齢の方々や、立場の方との交流を通して、自分の見方や考え方を広めていく。デイサービスセンター、ふれあい児童館（未満児）、養護学校の中から選択して交流。



3 , 本時のねらい

少年を助けようとする「私」の気持ちや、自分の至らなさに気づく「私」の気持ちを考え、自分の体験と重ね、共感することによって、相手の立場に立って考えるという意識を深め、行動しようとする態度を養う。

4 , 指導過程

	基本発問と予想される児童の反応	教師の支援・留意事項
導入	<p>1 , 本時の方向付けをする。</p> <p>今日は「相手の立場に立って考える」ということについて考えたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読む際や話し合うときの観点を明確にしておく。
展開前段	<p>2 , 資料を読んで話し合う。</p> <p>感想・心に残った場面を発表しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 初めは、なぜ外国人達が止めたのか分からなかった。 いつの間にかみんな少年を応援していたのが印象的。 少年が自分の力で、溝から出ることができて良かった。 外国人達は、本当に少年のことを考えていたのだと思う。 <p>少年を助けようと思ったのに、止められた私は、どんな気持ちだったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 助けようと思ったのに、なぜ止めるのか。怒るのか。 外国人達はなんて冷たいんだ。外国人達の態度に腹が立つ。 <p>冷たいと思っていた外国人達が、少年を励ましているのを見て、私はどんなことに気づいたのでしょ。</p> <ul style="list-style-type: none"> 外国人達は冷たいのではなく、少年のことを考え、自分の力でやらせたかったのだ。 外国人も少年のことを考えていた。 外国人が私を止めた理由。 自分は外国人と違って、ただ手伝おうとただけだった。 <p>喜びでいっぱい少年を見て、私はどんな事を考えたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 少年が自分の力でできて良かった。満足そうだ。 初めは腹が立ったが、止められて、手を貸さずによかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ポイントとなる感想や、場面が出れば取り上げ、次の展開につなげる。 困っている少年を助けようとする私の行為は価値のあるものであることを押さえつつ、それを止められた私の不満な気持ちに共感させたい。 少年のことを考えて手を貸そうとしなかった外国人と、ただ手を貸そうとした私の行為の違いを、自分の考えのたりなさに気づく私を通してとらえさせたい。 外国人のことをどう思ったかに目を向けさせ、外国人の行動が相手（少年）の立場にたって考えたものであるとまとめたい。 これで良かったという思いの私をおさえたい。
展開後段	<p>今までの生活の中で、相手のことを考えて行動した事がありますか。相手の反応はどうでしたか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 意見が出なければ、今までの体験を振り返ることが出来るように、うながしたい。（昨年度の「はなさと」訪問の件など。）
終末	<p>3 , デイサービスセンター職員、清水さんの手紙を読む。</p> <p>内容として・・・日頃どんな気持ちで、接しているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> どんなことに気を付けているか。 自分が考える、「相手の立場に立つ」とは。 	<ul style="list-style-type: none"> 「相手の立場に立つ」ということは様々な場合が考えられるが、その中の一つの場合として、子供たちのイメージが具体化できるようにしたい。